

受付番号	2022-45		
許可番号	大歯医倫 第 111251-0 号		
研究課題名	フェイススキャンデータおよび歯列データを用いた審美・咬合分析における測定項目の基準範囲の設定		
研究責任者	佐藤 正樹	申請者	糸田 昌平
研究終了日	2025 年 3 月 31 日		
所属	有歯補綴咬合学講座	所属	歯学研究科 有歯補綴咬合学専攻
職名	講師	職名	大学院 2 年生

申請の概要

近年、歯科治療における患者の審美的要求が高まっており、歯の形態や色調のみならず、歯列と顔貌との調和が重要視されている。顔貌の情報を取得するツールにフェイススキャナーがあり、患者の口腔外軟組織のデジタル化が可能となった。フェイススキャナーは光学式の形状計測装置で、放射線被曝を伴うセファログラムと比較して、非侵襲的に審美分析に必要な顔面軟組織の形状や色調を捉えることができる。

そして近年、フェイススキャナーによる自然頭位での顔貌のテクスチャー付き 3D データと、口腔内スキャナーによる歯列のイメージデータとを統合することにより、歯列のみならず顔貌と調和した審美的な補綴修復が可能となってきた。しかし、フェイススキャナーを用いた審美・咬合分析には顔面軟組織をもとにした標点間距離や標点間角度についてのセファログラムのような明確な基準

範囲の設定はなされていない。

フェイススキャンデータと歯列データを統合した顔貌データを水平面、正中矢状平面を基準として測定することで、日本の若年成人の審美・咬合分析に必要な標点間距離および標点間角度の基準範囲が明らかとなり、前歯部のみならず臼歯部も含めた立体的なスマイルデザイン手法の確立が期待できる。